

報道関係各位

株式会社オリエンタルコンサルタンツ
代表取締役社長 野崎 秀則

「地震対策型段差抑制工」

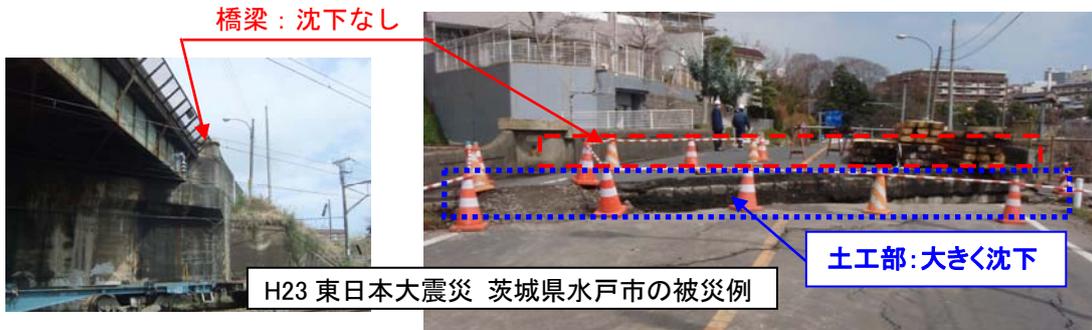
～適用拡大に向けた共同開発～

(株)オリエンタルコンサルタンツは、中央大学研究開発機構、(株)NIPPON、前田工織(株)による開発工法（地震対策型段差抑制工）の適用拡大に向けて、採用が難しかった橋台や土被りの浅いボックスカルバートでも使用できる構造について、産学連携による共同開発を行いました。

■ 地震時の交通機能確保における現状と課題

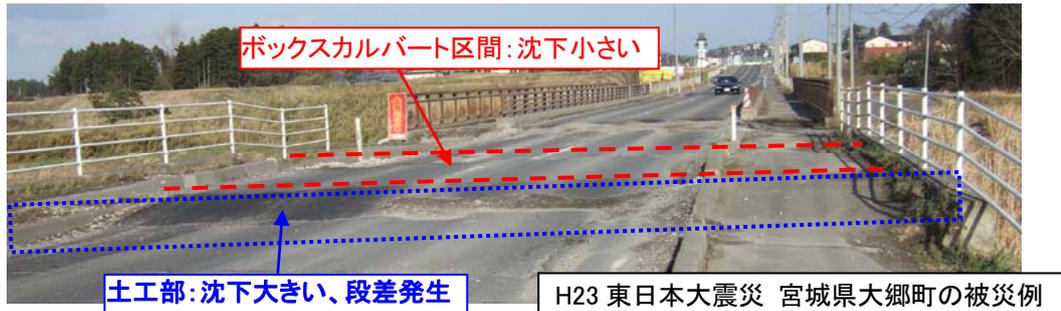
1. 橋台背面土工部の段差（沈下）

H23 東日本大震災では、橋台背面側の土工部において大きな沈下が発生しました。これにより、橋梁は耐震性が発揮されたものの、土工部に大きな段差が発生し交通が遮断されました。



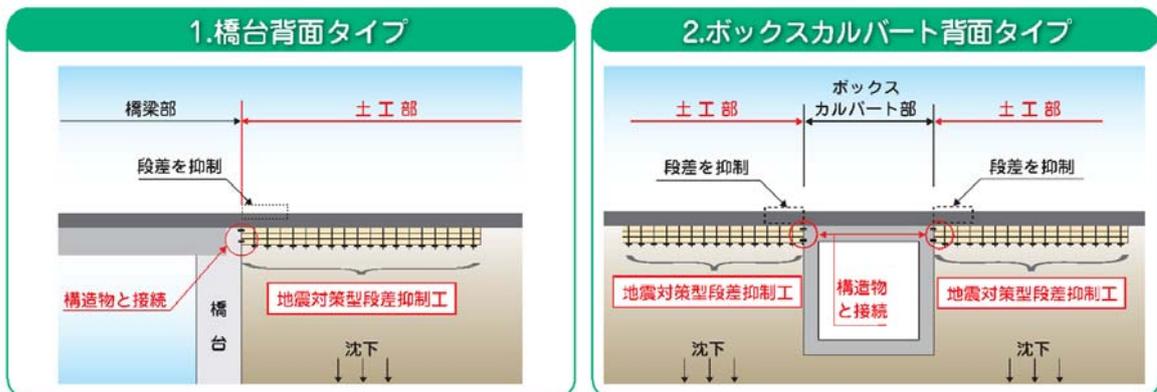
2. ボックスカルバート背面土工部の段差（沈下）

ボックスカルバート背面土工部では、ボックス区間より大きな沈下が発生しました。これにより、道路舗装面に段差が発生し、交通の遮断や低下が生じました。



■ 土工部の沈下対策「地震対策型段差抑制工」の提案

橋台・ボックスカルバートと接続する土工部の沈下対策として、「地震対策型段差抑制工」を設置し、地震時における道路防災・道路交通確保を行うことを提案します。

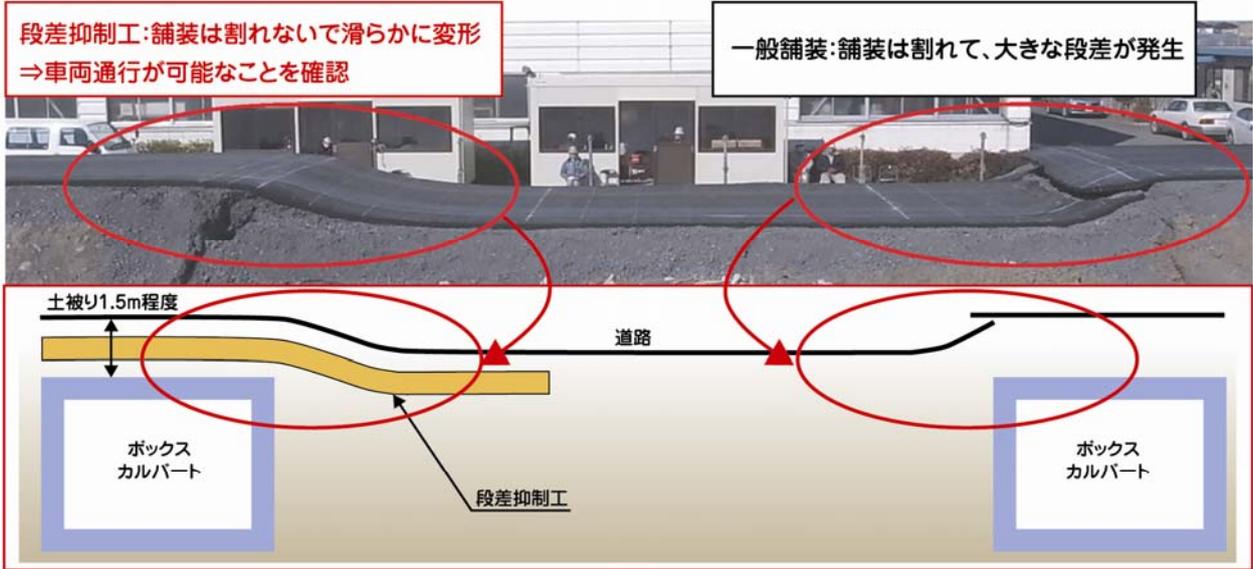


■ 「地震対策型段差抑制工」の構造・仕様の紹介

実物大実験による性能の確認（土被りが1.5m程度の場合）

最大規模の地震時の沈下を想定した実物大実験を実施。

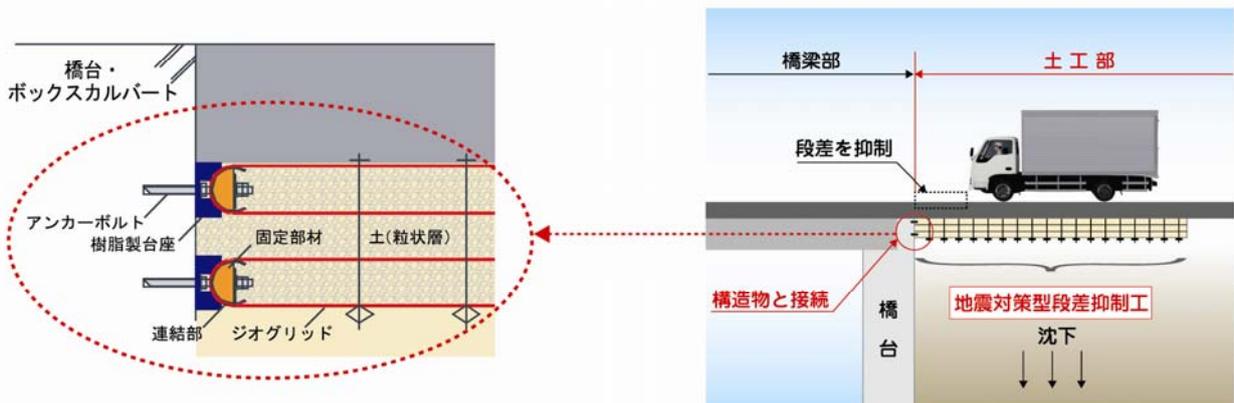
60cm程度の沈下においても舗装は割れず、車両通行が可能なことを確認。



※ 本工法は、中央大学研究開発機構、(株)NIPPO、前田工織(株)による開発工法

橋台やボックスカルバートと接続する「地震対策型段差抑制工」の構造

上記に対して、橋台背面・土被りの浅いボックスカルバート等の構造物と接続する土工部でも使用可能となるように、(株)オリエンタルコンサルタンツは、上記開発者との産学連携で共同開発を実施。



※ 共同開発の内容は、構造物に接続する部材検討・本工法の補強メカニズム検討(特許出願中)、構造物に接続した場合に安全性・影響を確認する設計照査法

以上

＜本資料に関するお問い合わせ先＞
 株式会社オリエンタルコンサルタンツ
 TEL:03-6311-7551 FAX:03-6311-8011
 URL:http://www.oriconsul.com/
 本社・統括本部 三百田、伊藤